

栄養茨城 FLASH No.10

社団法人
茨城県栄養士会

住所 〒310-0034
水戸市緑町3-5-35
保健衛生会館内
TEL 029-228-1089
FAX 029-228-4271

http://www.ibarakiken-eiyoushikai.or.jp/

公益社団法人になりました

会長 高橋 征子



このたび、社団法人茨城県栄養士会は平成二十四年四月一日から公益社団法人茨城県栄養士会として活躍することになりました。

関係法律の改正により、法人改革が推進され、従来の法人が改正になったことになりました。日榮や各都道府県も公益社団法人取得に尽力しています。

一 会員だけの限定事業だけでなく、非会員や一般県民も参加できるような事業を展開するようにになります。

二 従来の協議会名が専門研究会と名称が変わります。各都道府県でも夫々に名称が付けられますが、日本栄養士会は事業部という名称で全国を運営しますので内容に変更はありません。

三 専門研究会は、会からの専門研究会費(従来の交付金)

の事業計画・報告・収支状況に領収書等を付けて茨城県栄養士会に毎年報告します。

四 役員は、立候補制となり、専門研究会(従来協議会推薦)選出理事はなくなります。(立候補等は、役員会で検討する必要があります。)

平成二十四年度は、役員改選年ではありませんので現役員全員新法人役員として活躍することになります。

会長は理事のなかから理事会で選出されます。

五 経理関係は、従来の様式と変わりますが、内容等の変更はありません。

六 毎年関係経費の五十%は、公益事業として運営することが改正の大きな目的ですが、当会事業は、クリアしていませんので変更はありません。

今回の公益法人対応については、いろいろと御心配をおかけしましたが、従来実施してきた事業は、全て公益法人認定対象に認められました。

平成二十三年年度総会において、新定款・事業計画・収支予算等の承認が得られましたので、肅々と公益認定作業を事務的に行うことが出来ました。当会は、局長を中心に職員全

員で認定業務を担当し、関係職員員の支援を頂きながら自助努力(無料)で認定を受けることが出来ました。

今後は事務局が新法人規定に基づき、事業計画・報告・収支予算決算等業務を行うこととなります。皆様方には、公益社団法人茨城県栄養士会として社会貢献が出来るように会員ひとりひとりのご協力ご支援をお願い申し上げます。

通常総会役員選出

平成二十三年五月二十六日(木)茨城県建設技術管理センターにおいて平成二十三年度社団法人茨城県栄養士会第二十五回通常総会並びに日本栄養士連盟茨城県支部総会が開催されました。

その折、役員の改選が行われ、次の通り選出されました。

社団法人茨城県栄養士会

会長 高橋 征子
常務理事

総務部長 入江 三弥子
組織部長 山崎 富江
学術部長 岡 純子
事業部長 高 文江
広報部長 矢代 あや子

日本栄養士連盟茨城県支部
名誉支部長 高橋 征子
支部長 政安 静子
副支部長 岡 純子
副支部長 高 文江
幹事長 鈴木 修弥
財政部長 佐藤 満子
(文責 高津戸 みち子)

日本栄養士連盟 茨城県支部活動

経済状態が冷え込み、毎日の業務にも会員の皆様の待遇にも大きな影響を及ぼしていることと思います。この状況を少しでも改善するためには、国政や県政の力が必要であり、連盟としては管理栄養士・栄養士の現状をお伝えする必要があります。

毎年実施しております新春懇談会は現状をお伝えする一環として重要な事業であり、県民の食生活・健康を支援する団体の一つである食生活改善推進員の皆様と合同開催の上、交流を深めております。本年度は二月一日に栄養士会百五名、食生活改善推進団体連絡協議会六十一名、来賓二十二名(議員・県・養成校等)、賛助会員二十八名、総二百十六名で大盛会裏に終わることができました。連盟茨城県支部の高橋征子名誉会長が長年積み上げてきました交流会であり、この事業の重要性は高く、今の栄養士会活動の礎の一つになつていると確信しております。栄養士会が公益法人となりますと、連盟活動は分離されますが、栄養士会活動は応援する団体であることは間違いのないことから、今後より一層力強い組織にして参りたいと存じますので、ご支援ご協力をお願い申し上げます。

(文責 政安 静子)

茨城県教育委員会 教育長

今回は、小野寺俊茨城県教育長さんを訪問させていたたく事が出来ました。年度末の大変お忙しい時期にもかかわらず、お話を伺う機会をとって頂き感謝申し上げます。食に関する話題から学校の役割、生活信条、趣味等に話題も広く、終始和やかに楽しくお話を聞きしました。

(司会 矢代あや子広報部長)

ご出身は？

会長…ご出身はどちらですか。
小野寺…岩手県一関市です。
山崎…岩手県と茨城県を比べて、県民性に違いを感じますか。
小野寺…感じますね。やはり、東北はいろいろな面で厳しいで

すよ。茨城は、作物はどんなものでも育ちますし、気候、自然条件においても恵まれ過ぎていますね。

山崎…それだけにのんびりしているのでしょうか。

小野寺…東北のように条件が厳しいところは、人を押しのけなければ生きていけないというそんな厳しさがあります。よく茨城はブランド力がないとかイメージが湧かないとか言われますが、イメージが湧かないのは恵まれすぎていますからだと思います。我々県民は魅力度に関係



なくそこそこ暮らしているのので、魅力度を上げる必要がないのが実態なのでしょうね。

矢代…困るわけではないですね。

小野寺…しかし、茨城ほど実力と評価にギャップのある県はないのではないかと思います。実力がありながら評価されていないですね。評価されるためのアピールを余りしていないということもあるのでしょうが、一度来てもらえば茨城はすばらしいところだとわかってもらえるのですが、遠くから見ているの

では、茨城の良さがわかってもらえないのですね。

趣味はスポーツ

住友…趣味はどんなものをお持ちですか。

小野寺…観るのもやるのもスポーツが大好きです。小さい頃から野球をやっていて、今でもたまにやっています。

住友…野球チームを持っていますか。

小野寺…チームを持つというところでは、各課対抗でよく野球をやりますね。

局長…よくおかけしました。

会長…ストレス解消にはよいですよ。国体を誘致すると伺いましたね。

小野寺…平成三十一年、七年後ということで内々定はしています。二回目になりますかね。今年の四月以降に準備が本格化すると思います。

日々の食事で健康維持

大内…健康管理で特に気をつけていらっしゃることはありますか。

小野寺…特にないのですが、日々の食ですかね。毎日の食については私自身もそうですが、妻がすばらしい料理を作るわけではないですが、バランスを考えた食事を心がけてくれています。私は、好き嫌いはないのですが、野菜をあまり食べないで

けるのはなかなか難しいですね。

細心にして大胆

会長…日頃の信条をお聞かせいただけますか。

小野寺…なかなか実行はできないのですが、「細心にして大胆」ということが昔から好きで目標にしています。「細心と大胆」は相反するような気がしますが、決してそうではなくて、綿密に用意周到に準備をすれば思い切った決断もできることと考えると、不離一体語だと思えます。やろうと思ってもそう簡単にはできないというところもあって、常に心がけています。

住友…大事なことです。つい、大きな仕事をやるときは、臆病

Yakult

ヤクルト
400



ヤクルト400に比べ
甘さ・カロリー
ひかえめ
ヤクルト
400LT

お申込み・お問合せは
(受付時間:9:00~17:30 土・日・祝日を除く) ☎0120-11-8960

水戸ヤクルト販売(株)／水戸市谷津町1-35 〒311-4164 ☎029(251)8960
古河ヤクルト販売(株)／古河市南町1-62 〒306-0015 ☎0280(31)8960
千葉県ヤクルト販売(株)／習志野市茜浜2-5-2 〒275-0024 ☎047(452)8960
いわきヤクルト販売(株)／いわき市小名浜林城字向田2-1 〒971-8122 ☎0246(58)8960

表敬訪問

小野寺 俊

になってしまいますものね。
小野寺：細心は決して小心ではなく、大胆は決して無謀ではない。細心であり大胆であることの正しい理解を常にしなくてはいけないと思います。バランスがむずかしいですね。

学校の役割

会長：それぞれの栄養教諭がいてよかつたといわれるような仕事をすることはもちろんですが、地域に支えられるような学校運営も大事なことだと感じています。そこで、地域を知っているボランティアの食生活改善推進員さんを活用し、栄養士がリーダーシップをとりながら地域の活性化にもつながられるような

ことができるのではないかと考えるのですが。

小野寺：今度の震災で学校は避難所としてだけでなく、防災の拠点としてきちんとした機能を持たなければならぬということとを再認識させられました。防災だけでなく地域と学校は、一つの中核的な役割を担うような学校運営をしていくことによつて、いざ災害になったときも学校とのネットワークが作れ、学校を中心にしてまとまってくることでできくるのではないかと思っています。

会長：今回の震災では、次の日のお昼まで食べる物がなかったなどという話を聞きました。そういう話を聞いた中で、災害のときには、学校栄養士が一番、核になれるのかという気がします。学校栄養士は、大量調理の方法を知っている、いろいろな物資がきたときに組み合わせを考えて平等に配布できるなど、ノウハウを持っています。また、学校は、給食施設を持つているので、それを防災の拠点として活用できるのではないかと思います。そこで、食生活改善推進員の人たちとの連携ができれば、ものすごい力になるだろうと思います。

小野寺：来年度の予算の中で学校の防災力を強化して、地域とのコミュニケーションを図り、ネットワークを作っていくというモデル事業を考えています。そのときに、今おっしゃられたことを盛り込んでやればすば

らしいことだと思えます。栄養士の皆さんには、学校という狭いエリアに留まらず、家庭とか地域とかにも広がりを持った活動をしていたらいいと思います。そのためには仕組みを作っ



山崎：学校のいいところを活用するということはすばらしいことです。

小野寺：今回の教訓ですが、学校は、避難所でありながら、備蓄がぜんぜんなかったのです。これまでは、市町村が備蓄して

いて災害のときに避難所である学校に配布するという仕組みだったのですが、道路が寸断されて運べなくなつたということもあり、やはり、最低限のものはそれぞれのところに持っている必要があると反省しています。

会長：これから学校の役割はたくさん増えてきますね。

小野寺：学校が、地域をつなぐネットワークの核になってくると思います。

栄養教諭に一言

ていくことも大事なことです。我々は事業を通じて皆さんに活躍いただく場が考えられればと思っています。

会長：栄養教諭が全国に増えてきました。職場に食を

を教えるのは一人しかいないので、孤軍奮闘しているのが現状です。食から健康を担えるのも私たちのやりがいになっていきます。ぜひ栄養教諭にエールを一言お願いいたします。

小野寺：食というのは人間が暮らしていく上で一番のベースのところなんです。現代は、核家族化だったり、夜型の生活になったり、昔のようにきちんとした生活がなされていない時代だと思えます。その中で栄養教諭が学校だけでなく家庭とか地域とかで担当食についての指導・普及の意義というのは、本当に大事なことでと思います。これからは、皆さんの役割、需要がますます強くなっていくと思います。今後のご活躍に期待するともに、よろしくお願ひしたいと思います。

全員：ありがとうございます。

(文責 高津戸 みち子)

《 都道府県別栄養教諭・学校栄養職員配置状況について 》

都道府県名	※平成21年度栄養教諭・学校栄養職員数	平成23年度栄養教諭数	栄養教諭配置割合%
1 鹿児島県	199	155	77.9
2 兵庫県	434	338	77.9
3 島根県	81	61	75.3
4 大阪府	595	442	74.3
5 京都府	215	156	72.6
6 北海道	578	404	69.9
7 香川県	103	71	68.9
8 三重県	185	115	62.2
9 岐阜県	203	112	55.2
10 愛媛県	173	91	52.6
11 福岡県	422	213	50.5
12 山形県	104	49	47.1
13 岩手県	161	74	46.0
14 長崎県	168	77	45.8
15 高知県	94	41	43.6
16 山口県	187	78	41.7
17 新潟県	289	119	41.2
18 石川県	126	49	38.9
19 福井県	93	32	34.4
20 熊本県	207	67	32.4
21 滋賀県	93	30	32.3
22 鳥取県	59	19	32.2
23 徳島県	109	35	32.1
24 愛知県	473	144	30.4
25 佐賀県	113	34	30.1
26 奈良県	131	32	24.4
27 宮崎県	125	28	22.4
28 埼玉県	653	138	21.1
29 青森県	112	23	20.5
30 栃木県	214	43	20.1
31 宮城県	273	54	19.8
32 沖縄県	157	31	19.7
33 富山県	128	25	19.5
34 茨城県	268	47	17.5
35 秋田県	147	25	17.0
36 大分県	142	23	16.2
37 山梨県	135	21	15.6
38 和歌山県	104	15	14.4
39 長野県	289	41	14.2
40 岡山県	304	41	13.5
41 群馬県	208	27	13.0
42 福島県	249	27	10.8
43 静岡県	332	36	10.8
44 広島県	253	26	10.3
45 神奈川県	674	52	7.7
46 千葉県	768	58	7.6
47 東京都	1195	36	3.0
計	12325	3855	31.3

※21年度学校給食実施状況調査の 第9表 都道府県別栄養教諭・学校栄養職員配置状況を基礎資料とした。

受賞おめでとう

永年の栄養士活動が認められ、平成二十三年度表彰された方々をお知らせします。
(敬称略)

叙勲・大臣賞・知事賞 保健福祉部長賞

叙勲旭日双光章受章者



前社茨城県栄養士会会長
田村 チイ

栄養関係功労者
厚生労働大臣表彰受賞者



茨城県立健康プラザ
郡司 順子



常磐大学人間科学部
健康栄養学科
富田 教代



大場内科クリニック
廣木 智子

茨城県知事感謝状受賞者

・第二十五回通常総会

(株)日京クリエイト

小又 敬子

阿見町健康づくり課

染谷 悦子

鹿嶋市鹿島保健センター

谷村 ふく枝

・県民健康づくり表彰式

常磐大学人間科学部

健康栄養学科

荒田 玲子

身体障害者療護施設

たまりメリーホーム

中山 和貴子

水戸済生会総合病院

島田 千賀子

茨城県保健福祉部長
感謝状受賞者

・第二十五回通常総会

(株)日京クリエイト

池野 祥子

合同会社この指とまれ

糸賀 エツ子

土浦協同病院

栗原 恭子

・県民健康づくり表彰式
国家公務員共済組合連合会
水府病院

野上 久美子

茨城大学学務部学生生活課

綿引 光子

旭日双光章を 受章して

田村 チイ

この度、平成二十三年春の叙勲にあたり、旭日双光章の栄えある受章に浴しました。これはひとえに皆様方の永年に亘る温かいご指導・ご支援の賜物であり、心より御礼申し上げます。

この章は、管理栄養士・栄養士の活動が認められ、重ねて栄養士会を支えてくださった多くの方々が頂いたものであり、私は単にその代表者であると思っております。

栄養士の仕事は、その時代、時代で、国民の栄養課題に取り組み、それぞれの職場で、多くの方々に支えられての仕事である大切な職業です。

私は、地域の中で楽しく過ごしておりますが、今までの仕事の延長である「食」を通しての健康づくりに参加しております。栄養士は、年齢には関係なく栄養士なんだと思います。

地域の方々の健康を考え、ヘルシー料理教室や、親子で参加できる「食育カルタ」の作成や、カルタ大会を開催しながら「食」

賛助会員コーナー

ウルノ商事展示会

平成二十三年八月二十七日水戸プラザホテル二階会場で、学校給食・業務用食材の総合商社ウルノ商事「創業六十周年大展示会」が開催されました。震災後の『風評被害を吹き飛ばしたい。』という思いが重なり、県栄養士会も「しめじのスパゲティ」「みず菜とレインコンのごまドレサラダ」「メロニピザ」など県産品野菜を使った簡単レシピを提供し、出展しました。

栄養士・関係者含めて約千七百人が来場し、帰りにはJA茨城旭村産メロンのお土産付きと風評被害解決に繋がる大展示会となりました。
(文責 佐藤 満子)

に対する正しい情報の普及に努めております。

これも栄養士会で学んだ尊い経験と、家族や地域の方々との理解に支えられているので、出来ることだと思えます。

会員の皆様も、国民の健康づくりのため、栄養士会の活動に参加され、組織を通して会員との繋がりを大切にしながら情報を共有して、仕事に活かせるように仕事も楽しくなると思えます。

私も、皆様の邪魔にならないよう、栄養に副える生活をしてまいりたいと思っております。

研修会での ランチオンセミナー

一回目、七月二十二日県立青少年会館で、ハウスウェルネスフーズにより「ビタミンと葉酸の可能性」の講義を開催。二回目、八月五日県立健康プラザで、クイジナートサンエイにより「フードプロセッサー使いこなしのコツ」の講義をその日には調理実習デモも実施し好調でした。三回目、十一月二十二日常磐大学で、強化米「新玄」を扱うハウスウェルネスフーズにより「ビタミン(葉酸)について」の講義と二十三年度は三回開催しました。賛助会員のランチオンセミナーを今後も引き続き企画していきます。
(文責 佐藤 満子)

賛助会員の活躍一覧

◎ 商品展示	総会	25社
	茨城県栄養健康改善学会	13社
	茨城栄養学術講習会	7社
	給食施設調理従事者研修会	3社
	児童福祉施設給食関係者研修会	1社
◎ 商品協力	新春懇談会	43社
◎ 広告掲載	総会資料	4社
	栄養茨城	3社

第十回

茨城県栄養健康改善学会

去る二月十日常磐大学において第十回茨城県栄養健康改善学会が開催されました。午前中は第四分科会(公衆栄養・健康増進、臨床栄養、給食・食事管理、食生活・食環境、食品調理)に分かれ二十八題の発表がなされ、活発な質疑応答がされました。発表者の方も若い方が目立ちました。また、東日本大震災関連の栄養士の取り組みが多かったように思いました。地震後の対策なども色々紹介され、これからは互いに情報交換が大事だと思いました。他には放射能汚染と食品、ヘルシーバランス食への取り組みに関する発表などもありました。

また別会場では十七題の示説発表がなされ、発表時には、ポスターを前に活発な意見交換が行われておりました。午後からは千葉茂学会会長の開会挨拶があり、橋本昌知事から来賓挨拶をいただきました。その後基調講演が行われ、常磐大学大学院人間科学研究科教授水口進先生からは『心のゆとりを求めて、身体から心へ』という題で障害児の心と体についてお話がありました。例えば自閉症のこどもの特徴として緑色の野菜が苦手であり偏食がある。了解能力



(文責 入江 三弥子)

発表者紹介 (栄養士会員)

口演発表

第1分科会 【公衆栄養・健康増進】

職種による摂食状況と疾病の関係

鎌田 春枝

東日本大震災における行政栄養士の栄養・食生活支援活動事例について

和田 圭子

ヘルシーバランス弁当「元気な高齢者向けお弁当」に対する味覚の集団特性による差異

江原 みゆき

震災時栄養・食生活支援のための平常時取組に対する一考察

須能 恵子

第2分科会 【臨床栄養】

当院におけるNST活動の現状と課題

大槻 将史

左下腿切断術実施前後の栄養管理

鈴木 美絵

食物アレルギー児の食物除去解除を安全にすすめるための工夫 ―当院におけるslow SOTI症例―

斎藤 杏美

高度侵襲患者に対するアバンド[®]の使用経験

武田 久美子

ミキサー食・きざみ食対象症例における摂食回復支援食『あいーと』の使用経験

白土 千夏

災害時における病院食の提供

―当院及び地域栄養士の取り組み―

飛田 彩香

外来透析患者の栄養管理

～悪戦苦闘の栄養指導～

大濱 良映

クリニックにおける「保存期慢性腎不全」の初回指導の現状

廣木 智子

第3分科会 【給食・食事管理】

ウェットからドライ厨房への全面改修の取り組み

矢代 あや子

特別支援学校における個別の栄養相談指導の取組

倉持 裕子

当園における食育活動

谷中 厚子

栄養ケア・マネジメントの取り組みについて
～ビタミン・ミネラルの補給による褥瘡改善の事例～

中崎 陽子

第4分科会 【食生活・食環境、食品調理】

管理栄養士が在宅介護予防事業に関わっていく

樋田 葉子

示説発表

【公衆栄養・健康増進】

全国みそ汁塩分濃度調査と食・健康の関連分析

梶本 雅俊

【給食・食事管理】

託児所におけるおやつのある方

関口 真由美

高齢者施設における地産地消の給食

鈴木 宏美

【食生活・食環境】

オリジナル教材を使った幼児期への支援(1)

内田 亜紀乃

食農教育の取り組み ～農業体験型実習と調理実習の連携～ 第3報

田村 恵理

日栄委託事業
セミナー
「牛乳を科学する」

平成二十三年十月三十一日、常磐大学日棟講堂にてセミナー「牛乳を科学する」が開催されました。第一部では、中部大学教授根岸晴夫先生による「牛乳の成分とその機能」と題した基調講演が行われ、牛乳の主要成分である乳糖、乳脂肪、カルシウムの特徴と機能性、特にカルシウムの吸収の仕組みと骨の骨吸収・骨形成の仕組みなどを、わかりやすい模式図を示して講演いただきました。

第二部では、パネリストの三氏(早稲田大学総合研究機構教授福岡秀興先生、聖徳大学教授池本真二先生、料理家・管理栄養士の小山浩子先生)の講話をいただき、第三部では、講師四氏によるパネルディスカッションが行われました。

その中で、福岡先生から、「骨粗鬆症の患者に、認知症や動脈硬化の合併が多い」、「カルシウムを充分取ることが尿管結石や動脈硬化性疾患の発症リスクを低くする」、「血圧を下げ、高血圧を予防する」、「月経前のイライラ、激しい感情の起伏等の月経前緊張症(PMS)もカルシウムの不足で生じる」などの最新知見も披露されました。会場からもその点への活発な質問があり、有意義な研修となりました。

(文責 荒田 玲子)

例年になく寒波に襲われた平成二十四年二月三日・四日、鹿島セントラルホテルに於いて、地域活動協議会の全国大会が開催されました。三日のリーダー育成研修会・四日の第二十九回公衆栄養活動研究会が無事終了でき、準備に関わった会員一同、胸をなでおろしています。

全国地域活動栄養士協議会 全国リーダー育成研修会 第29回 公衆栄養活動研究会

一回目の実行委員会を開いた十日後に、未曾有の被害をもたらした東日本大震災。二回目の実行委員会は、会員の被害の重大さを思い、十月八日まで開くことができませんでした。

迎える側として

の共通の思いは、会議・研修会が滞ることなく進行すること、そして参加された方々が笑顔で帰路に立たれることだと思います。そのための準備に、細部まで配慮する大切さを知

りました。リーダー育成交流会は、全国の代表者だけでなく一般の会員も傍聴者として参加できます。今年は、公益法人化に関する議題で意見交換されました。公益法人としてスタートした県からの状況報告があり、まだ組織改善をしてスタートしようとする県から多くの質問がでて、予定

時間では足りないほどでした。栄養ケア・ステーションの現状は県により大きく違い、温度差を感じました。茨城県は食育活動・特定保健指導等、県栄養士会の支援があることで、他県から羨ましがられました。栄養士会の名前を前面に出して活動するからには、プロとしての自覚



を持ち、活動していきたいと思いをしました。

情報交換会は、副知事山口やちろ様・高橋会長のご臨席を賜り、心温まるご挨拶を頂きました。華やかな雰囲気と色彩豊かな料理。価格のにもても無理と承知しながら出した要望を、全て叶えて下さったセントラルホテル様に心から感謝を申し上げます。

ご当地クイズで県を紹介し、正解者に県の特産品をプレゼント。余興は、校門様一行が鹿島にてメタボ鬼退治をする寸劇でした。シナリオも、鬼の衣装も会員が作り、改めて会員の潜在能力の高さに驚きました。練習を重ねる毎に声も身振りも大きくなり、本番は堂々と笑いを誘いながら演じていました。会

場が一つになった瞬間でした。

公衆栄養活動研究会の事例発表は三例、内二例は起業に関するものでした。起業までのプロセス・活動内容を聞くことができました。資金や協力者の有無そして何よりもぶれない信念が大切と理解しました。茨城県から、深谷由美子会員が「特定保健指導における職業別の傾向」の発表がなされ、評価後のデータを知る機会となりました。

起業家安達美佐氏の講演は「活動から士業へ」。マネジメントの大切さ、地域活動栄養士の立ち位置と心構えを明確にするこの大切さを力説されました。小野章史氏の「公衆栄養活動に活かす基礎栄養学と知恵」は、話し方・表現方法で、聴衆を引き込む手腕を見せてくれました。間の取り方や笑いを誘う演出は、特に身に着きたい手法だと感じました。

開催県として、無事役目を果たすことができました。ご指導・ご協力を頂きました関係者の皆様に、厚くお礼申し上げます。(文責 中山 こう子)



茨城県栄養士会 学術講習会

十一月二十二日(火)常磐大学大講堂において、茨城県栄養学術講習会が約九十名の参加をもって開催されました。

この講習会は、茨城県病院協会と茨城県栄養士会が主催し、病院勤務医師・薬剤師・看護師・管理栄養士・栄養士を対象に学術、技術の振興の場として他職種間協同と情報の共有を図ることを目的とし開催されました。今回は、東日本大震災による影響について再検証による情報提供として企画されました。

午前の部では、「放射性物質と食品の安全性」と題し、日本原子力研究機構放射線管理部次長百瀬琢磨さんより、生活環境の放射線状況や、飲食物(水・野菜・魚)からの内部被曝線量の計算方法についての講演をいただきました。続いて放射性物質に関わるリスク管理及び評価の側面から、内閣府食品安全委員会事務局の浅見成志さんによる「放射性物質と食品の安全性」の講演をいただきました。暫定規定値の設定の考え方も示され、今後規定値の見直しが見られる際の判断根拠としての貴重な内容でした。

午後からは、常磐大学大学院人間科学教授・臨床心理士水口進先生による「ここを癒す」

気づき・傾聴・つなぎ・見守り」の講演が行われました。人間の心理状態を適応・過剰適応・孤独・孤立の四つに分類し、今自分がどこに位置しているかを考え、現状に気づくことが大切である。そして相手を知る為に良く聴くことが重要で時には見守ること(何もしないことに使うエネルギー)も大切である。また、食と心の関係は深く、食は人を動かす力を持っていることを改めて感じさせられました。食の専門家として心の栄養士(ソフリエ)を目指していきたいと強く感じる講習会でした。

(文責 岡 純子)



【タマゴフリン】

茨城県産牛乳と卵でつくった優しい味わい

いばらき乳業

代表取締役社長 海老沢 文範

茨城県石岡市東田中宇新田1187-1

TEL: 0299-26-8111 URL: <http://www.ibaraki-milk.jp/>



研修会の開催

ここからだの健康づくり
キャンペーン事業では、自殺の
原因のひとつである「うつ病」
の早期発見やストレスに強くな
るための食生活のポイントなど
をわかりやすくまとめたカラー
パンフレットを作成し、各種イ
ベントにて配布しました。また、
本会の封筒にも「つながるわ・
ささえるわ」「まずは、声をか
けあうことから始めてみせんか
」等の呼びかけをねらいとし

[illegible]

会封筒に掲載したイラスト

(文責 諸沢 志野)

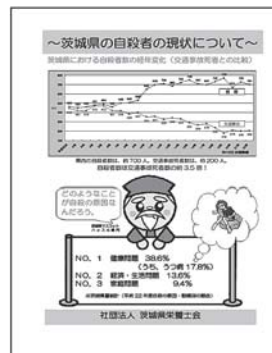
そこで、自殺防止対策として、茨城県より依頼を受け、自殺防止のための研修会の開催や、健康づくりと自殺防止を呼びかけるパンフレットを作成しました。パンフレットは各種研修会や地域のイベント等で会員の皆様のほか、一般県民の皆様に配布さ

健康食品の
知識普及員

普及員 (計 689名)	活動回数	対象人数
17年度	250回	4625名
18年度	2533回	7424名
19年度	1638回	7514名
20年度	1797回	7892名
21年度	870回	7248名
22年度	576回	9048名
23年度	集 計 中	

年 度	動機づけ 支 援	積極的 支 援	合 計
平成20年度	延べ 83回	延べ 68回	延べ151回
平成21年度	延べ163回	延べ212回	延べ375回
平成22年度	延べ179回	延べ345回	延べ524回
平成23年度 (H24/1現在)	延べ241回	延べ368回	延べ609回

特定保健指導
実施実績



 **信濃化学工業(株)**

 **0120-43-1115**

〒381-0045 長野県長野市桐原1-2-12
URL <http://www.shinano-kagaku.co.jp/>

公益社団法人茨城県栄養士会の設立について

従前の社団法人及び財団法人については、民間非営利活動を行う法人として大きな役割を果たしてきたところですが、各監督官庁の裁量で設立許可や公益性の判断が行われ統一的取り扱いがなされない状況にあったこと、国家、地方公務員の天下りの温床となり、高い給料を得たり、民間活動を阻害するという様々な批判も受けていたことから、従来の主務官庁制を廃止し公益認定等委員会による一元的な公益性の判断、監督を行うことなどを内容とし公益法人制度改定が行われたところです。公益法人関連三法（一般法人法、認定法、整備法）が平成二十年十二月一日に施行され、茨城県栄養士会も特例民法法人となりましたが、認定まで従前の名称を使用できるため、以降も社団法人を名乗っています。

特例民法法人は、平成二十五年十一月三十日まで一般的には一般社団法人及び財団法人、公益社団法人及び財団法人のいずれかに移行することが求められております。

県の総務課が開催する公認会計士、税理士等の各職域団体の説明会等を何度も受講しましたが、概念的な説明が多くなかなか理解できず、どの方向を目指したらよいのか思案に暮れておりました。その後、日本栄養士会がその専門性に基づく活動を

通して社会貢献をすべく公益社団法人をめざすという選択を行ったこと、関東甲信越ブロックの各県の動向等を勘案し、平成二十三年五月の通常総会において茨城県栄養士会は公益社団法人をめざす方針、同じく新法人の定款を提出し承認されました。次には、「平成二十四年四月に公益法人設立登記をめざすなら、二十三年九月中に公益認定等委員会に認定申請をしない。」という指導がなされ、認定申請書の作成、各規程改正案の検討等におおわらわでしたが、とにかく期日に間に合うよう認定申請書を提出しました。その後、何度も何度も公益認定等委員会からご指摘のあった箇所の検討、訂正等を行い、ようやく公益認定を受けることができました。この間、同時並行的に水戸法務局により「移行の登記」のご指導をいただき作業を進めてまいりました。

公益認定を受けられたのは一にも二にも高橋会長のリーダーシップ、それに役員の皆様のご協力、主管課（保健予防課）のご指導の賜物と感謝申し上げます。今後公益社団法人の登記をし、公益社団法人にふさわしい内容充実を図ってまいりたいと考えておりますので、会員の皆様のおお一層のご支援、ご協力をお願いいたします。

（文責 大籠 広幸）

これまで、日本栄養士会と各都道府県栄養士会は、会員情報管理を別々に行ってきましたが、平成二十四年度からシステムの一元化により新しいシステムを導入し、業務支援システムと名称を変更します。会員情報のデータ登録を都道府県栄養士会で行い、オンラインで日本栄養士会のサーバーに登録し、運用されます。これに伴い、会員証がカード化されます。有効期限は、五年とし、五年ごとに一斉に会員証カードを発行することとなります。会員番号

会員増対策

管理栄養士・栄養士は、食を通して人々を健康で幸せにできる知識や技術を持っています。そして、その知識や技術を常に向上させながら社会に貢献することを使命としています。

本会では、会員の資質向上のために各種研修会や生涯学習等のスキルアップ対策を行ってきました。しかし、会員数はここ数年減少傾向にあり、今後、十分な活動ができなくなる恐れもあります。専門職として社会的躍進を図り、県民の健康づくりのリーダーと呼ばれるためにも会員の皆様の継続をお願いいたします。また、お近くに未加入の方がおりましたら、ぜひ、入会をお勧め願います。

（文責 山崎 富江）

新会員管理システム （業務支援システム）

は、固定番号となり、一会員一番号とします。協議会を変更しても会員番号は変わらなくなります。継続会員は、現在の番号を使用することになります。会員証は、会費を納入された会員に日栄より順次送付されますが、発行者名を「公益社団法人日本栄養士会」とするために、会員証発行時期が従来より大幅に遅れ六月以降となる予定です。会員の皆様にはご迷惑をおかけしますが、ご了承いただけますようお願い申し上げます。尚、ご不明な点は、本会までお問い合わせください。

（文責 高津戸 みち子）

会費・栄養会館運営拠出金 納入のお願い

会員の皆様には、日頃からご協力を頂き感謝申し上げます。さて、平成二十四年度の会費等の納入の時期になりました。栄養士会費は前年同様一万二千円です。お早めに納入ください。また、栄養会館運営拠出金につきましても、完納していない方は、引き続きご協力下さいますようお願いいたします。

尚、連盟費は、二千円に値上げになり、会費納入方法については、コンビニ収納代行システムを活用した本部直納となります。お間違えのないように納入ください。

（文責 高津戸 みち子）

事務局だより

今回の震災では、賛助会員（五十八社）のご協力を得、納品稼働状況など有意義な情報提供が came しました。

茨城県栄養士会の運営は会員・賛助会員の両輪によって成り立っています。また、企業を通しての栄養士・管理栄養士に対する社会的理解や信頼の高まりはこれから更に期待されることです。

会員の皆様には、関連の企業に対してのご案内・ご紹介等のご協力を引き続きお願い申し上げます。

（文責 鈴木 修弥）

編集後記

大震災、原発事故と大きな試練に遭遇してから、一年が過ぎようとしています。ライフラインが寸断された状況の中、給食の現場では他職種や納入業者さん地域の方々等の協力を得ながら、会員が必死になつて食事の提供を継続することが出来ました。人と人のつながりの大切さを痛感した年ではなかったでしょうか。

今後は職場でのコミュニケーション能力を高め、更に会員同士の情報交換を密にしていきたいと思っています。

（文責 矢代 あや子）